

みんながよろこんぶプロジェクト

昆布漁師の奥さんたちや、地元の宿の方、トラストスタッフなどのメンバーが集まってみんなで考えた昆布バター飴「霧中夫婦」が完成しました。『平成21年度持続可能な社会づくりを担う事業型環境NPO・社会的企業中間支援スキーム事業のモデル実証事業』という環境省からの長い事業名の補助金を活用して出来たプロジェクトです。この昆布バター飴製作にあたっては、冬の間は何度も話し合いを重ねました。飴を作るのもネーミングを考えるのもみんなで知恵を出し合って出来た力作です。

「霧中夫婦」という名前に込められている背景は、昆布を採る時期は霧が多く、その霧の中、夫婦で船に乗って力を合わせて昆布を採るという光景です。霧多布湿原センターと霧多布湿原トラストで販売していますが、5月の発売以来好評で品薄となっています。もう少し皆さんの手に届きやすくなるように努力中です。

夏には「みんながよろこんぶプロジェクト」メンバーが集い「霧中夫婦・昆布バター飴」完成、販売祝いをしました。今後の霧多布湿原トラストオリジナル商品の発展を願い巡り合ったご縁を大切に、また集うことを約束しました。



産地・我が街美味しさを競演… 北海道霧多布湿原の自然を守ろう

昨年に続き、東京都府中駅前商業施設「フォーリス1F光と風のひろば」で、物産展『産地・我が街美味しさ競演…北海道霧多布湿原の自然を守ろう』がシルバーウィークという秋の連休9月17日から19日の3日間開催されました。

今年は例年にない猛暑でしたので、この連休も暑いのではないかと予想していましたが、過ごしやすいくらい気温になりお客様の出足は上々でした。

霧多布湿原トラストの応援団である、霧多布湿原ファンクラブ東京の皆さんを中心に、浜中会の皆さんのボランティアにも支えられて、このイベントも3年目を迎えました。

昨年同様スーパーマーケット「さくらコマース」の全面的な販売の支援や人員のお手伝いもいただき、霧多布湿原トラストのPRの声かけも自然に出てきて、職員の皆さんの霧多布湿原保全意識が高くなったことも感じました。消費者からも昨年購入した昆布がとてもおいしく、今年もこの商品を購入のため来店したというお客様もいらして、商品のファンもできたようでした。また、毎年このイベントの度に、霧多布湿原トラスト会員のみなさんが、会場まで足を運び、声をかけてくださるのも嬉しいことです。



北米留学生ホームステイ受け入れ

7月11日より7月21日まで10泊11日のホームステイを浜中町の皆さんにお願いし、13件のホストファミリーの方々にご協力をいただき無事終了することができました。

北米より13名の高校生が浜中町で過ごし、霧多布高校へ通学したり、お茶や剣道、座禅、和太鼓など日本文化を体験していきました。

10日間の滞在を終わるときには、ホストファミリーや友達との別れを惜しむ感動の場面もあり、良い思い出となったようです。

留学生から届いたお礼のメッセージを紹介します。

Thank you so much for help you gave us. I certainly enjoyed being in Hamanaka. I will come back next year. Don't forget us and we will not forget you either, thank you.

From Chan Shim

みなさん私たちにいろいろ協力してくれてありがとうございました。私は本当に浜中での滞在を楽しむことができました。来年ここに帰ってきたいと思っています。私のことを忘れないでください。私もみなさんのことを忘れません。ありがとうございました。

チャン・シムより



「おーいお茶」の伊藤園 清掃ボランティア

「おーいお茶」でおなじみの株式会社伊藤園北海道地区の社員の皆さんが、8月に霧多布湿原の清掃に汗を流してくれました。伊藤園さんは「お茶で北海道を美しく」キャンペーンを展開し、北海道遺産の中から霧多布湿原が選ばれて清掃活動が実現しました。



全道各地より集まった社員さんやそのご家族で40名、また地元のボランティアの方を合わせると総勢60名ほどで霧多布湿原と海岸のゴミ拾いをしました。嬉しいことに湿原側はほとんどゴミがなかったのですが、私たちとしてはホッと胸をなでおろしましたが、海岸側は380キロものゴミが集まりました。

漁師の皆さんは、昆布漁最盛期の夏はどうしても清掃が手薄になります。伊藤園の皆さんが海岸の清掃してくれたことに感謝をした漁師さんから、夕方の交流会に水揚げされたばかりのさんまの差し入れなどがあり、地元の方との交流も深まりました。今後とも継続的なお付き合いをお願いしたいものです。

伊藤園ボランティア参加の方から届いた感想を紹介します

今回の清掃活動で感じたことはゴミの中でもペットボトルの割合が非常に多いという事です。中でも「おーいお茶」のPetが目につき、これからの企業は物を売るだけではなく、その後のゴミの回収やリサイクルに真剣に取り組まなければいけないと気がきました。

各企業がこのような活動を行う事により北海道そして日本が美しくなりますので、今後も機会があれば積極的に参加したいと思います。

(株)伊藤園函館支店 松尾崇文さん



秋のボランティア作業

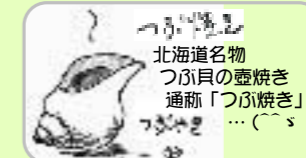
10月24日秋晴れの日曜日、ハーゲンダッツジャパン(株)、タカナシ乳業(株)の社員の皆さん、またトラスト会員の方や地元の方、総勢50名のボランティアが湿原センター前に集合しました。今年の作業は、霧多布湿原トラストがかねてより行っていた、山づくりの植樹です。植樹現場までの道のりは悪路で倒木などもあり、また、現場に着くまでには壊れた橋などもあって、今年の作業は非常に大変なものと思われました。

植樹班と橋建設班に分かれ、まずは植樹班の皆さんには壊れた橋を慎重に渡ってもらって、植樹現場のワシの巣の森へ行ってもらいました。橋建設班は、植樹班が帰ってくる時には、立派な橋を渡ってもらおうと、600mの道を材料を持ちながら3往復してもらいました。その道は、散歩ではとても素敵なおところなのですが、材料の重さが肩に食い込んでくる今回の作業は、大変辛いものになったようです。それでも、皆さん楽しみながら、植樹や橋の建設に汗を流していただき、完成の達成感を味わっていただけようでした。今回植樹をしている傍らで、木登りに挑戦していた子供たちの子供が、遊べる森に育ってくれることを期待し、大切に見守り、木を植え続けたいと思います。



霧多布湿原トラスト スタッフ、2010年の “つ・ぶ・や・き”

今年は、霧多布湿原トラスト、NPO法人取得満10年の年でしたが、私の結婚も満30年の節目でした。ハフワウ〜ため息が…(時子)
地デジテレビを購入しBS番組も見られるようになった。好きな番組にNHKの「プロフェッショナル」と「SONGS」がある。またウイスキーの量が増えそうだ。(瓜田)
今年のワタスケは、とにかく印象的だった。毎年多い少ないはあるものの、お約束のように湿原に広がる風景には安心感さえ与えられる。(ひろ)
「暑〜い!」を何回言ったかわからないほど暑かった今年の夏。しかし今では、寒いを連呼。ちゃんと冬はくるんだなあ。(みよ)
昨年からはじまった職員旅行。一番楽しみにしていた副理事長は前日の深夜にタコを食べ過ぎ、体調を壊して行けず(涙) 私たちは楽しかった!(^^)(みな)



あつたが初日の出2011 開催!

元旦に霧多布湿原センターで2011年の初日の出を見ませんか! 参加者募集中!!
お問い合わせ ☎0153-62-4600